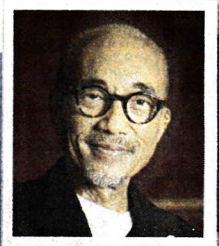


朝日小学生新聞

ピックアップ
 竹中直人さん
 2面



ナコ先生

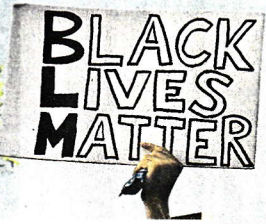


7面 英語の絵本を楽しむ

8面 小説 | Q探偵ムー



6月米国「ニューヨーク」



朝日新聞社

【人種差別への抗議の動き】5月25日、米国でジョージ・フロイドさんが白人の警察官に首をおさえられ、亡くなりました。これをきっかけに、抗議運動が全米、世界各地に広がりました。「Black Lives Matter (黒人の命は大切)」運動と呼ばれます。



「同じ境遇の人のほげみになれば」とツイートしたオコエ瑠偉選手=2017年 ©朝日新聞社

BLMは日本でも身近な問題

Black Lives Matter
 黒人の命は大切

楽天のオコエ選手もツイート

「肌色」は「一色だけじゃない」

アメリカ(米国)で白人の警察官が黒人男性を死なせた事件を機に、「Black Lives Matter (黒人の命は大切)」という抗議運動が世界に広がりました。日本でも肌の色のちがいで、嫌な思いをする人がいます。身の回りの問題について考えてみませんか。(中塚慧)

「自分のものすごく嫌だった過去をさらけだします」。プロ野球・東北楽天ゴールデンイーグルスのオコエ瑠偉選手(22歳)は先月、ツイッターに子どものころの体験を書きました。

アフリカのナイジェリア出身のお父さんと、日本人のお母さんを持つオコエさん。日本の保育園で親の似顔絵をかく時に、「顔は肌色でぬりましょう」と言われました。「肌色」は、うすだいたい色を指しています。

泣きながら茶色のクレヨンでお父さんの顔をかき、みんなに笑われたといいます。

さまざまな文化がまじる多文化共生を研究する、羽衣国際大学教授の「にしゃんた」さん(50歳)は、「ほくも肌の色がちがうためにさびしい思いをした一人」と言います。南アジアのスリランカから約30年前に来日し、後に日本国籍を取得。小さい屋で味見しようとした手をたたかれたり、タクシートの運転手に乗車をこぼれたりしたことがあります。

日本の問題の一つが「肌色」という言葉です。さまざまな肌の色があり、色の名前としては教育現場などで使わないようになりました。ただ、「学校で『うすだいたい色』と置きかえても、親の世代が『肌色』と言う人が多い。結果的に子どもも『肌色』と呼んでいる」と指摘します。

世界に抗議運動が広がると、日本にとっても差別の問題を見直すチャンスだと、にしゃんたさんは言います。「子どもたちには、肌の色や、得意なこと、ちがう友だちをたくさん作ってほしい。ちがいを束ねた分、強くやさしい人になれます」



にしゃんたさん

肌の色、得意なこと
 ちがう友だちを
 たくさん作って